

潮音寺だより

第 243 号
平成 16 年 1 月
電話 052-671-4831
ファックス 052-671-4856

<ホームページ> <http://www.ne.jp/asahi/choonji/namo/>

〒456-0034 名古屋市熱田区伝馬 1-10-11

新春

平成十六年

元旦



お母さんのところは
あたたかい
お母さんのところは
あたたかい



濱村敏男 画

人生は途中下車

明けまして、おめでとございます。旧年中は、檀信徒各位、本堂にお世話になりました。本年も、よろしくお願い申し上げます。

さて、毎年、当山から版画カレンダーをお分けいたしておりますが、たまたま平成十六年一月分の画像と標語のことについて、それぞれ別個にご質問をいただきました。そこで、この紙面を通して、私の分かる範囲で説明させていただきます。ここにいたしました。ただ、このカ

人生は途中下車。
目的地はない。



レンダーは、私自身が制作したものでありませんので、的確な答えにはならないかもしれません。そのあたりのこととは、ご承知のほど

よろしくお願いいたします。

まず、画像は、滋賀県草津市、橘堂の木造観音菩薩立像（平安時代



中期)であります。通常の十二面観音の場合、頭に十の小面をつけ、本面と合わせて十一面となるのですが、この像は、耳の後ろの両側に大きな面がついているという、ひじょうに特徴的なお姿しております。このような像は、渡岸寺の国宝十一面観音像(平安前期)が有名ですが、その他の作例はごく少ないといえます。しかも、十一面観音の場合、一臂か四臂である

のに対して、六臂(腕が六本)あるという、珍しい菩薩像であります。この琵琶湖周辺近江という地域は、奈良京都とはまた違つたすばらしい仏像や仏閣と巡り逢えるところであり、なんとか機会を見つけて訪ねてみたいものです。

次に、「人生は途中下車。目的地はない。」という標語についてです。残念ですが、出典は分かりませんでした。

人生は、よく道や旅にたとえられます。その範疇の言葉であることは、一読して理解できるのですが、「途中下車」さらには「目的地はない」と言い放たれると、少なからずとまごいを覚えます。

次の高村光太郎の詩の趣意とはよほど違っているように思われます。

道程

僕の前に道はない

僕の後ろに道は出来る

ああ、自然よ

父よ

僕を一人立ちにさせた広大な父よ

僕が目を離さないで守る事をせよ

常に父の気魄を僕に充たせよ

この遠い道程のため

この遠い道程のため

(詩集『道程』から)

この詩からは、希望・気力・勇氣・進歩といった、前向きな言葉が次々と思いつかなく出てくるのですが、

「途中下車」目的地はない」といつの日はいつもくりかえりしました。この言葉の意味の探りかたについては、尋ねてしまいかねません。その真意はどのにあるのでしょうか。

そのことを考える上で、宗教を

のものについて考える必要がありそうです。宗教・哲学・道徳は、人間の生き方に指針を与えてくれるものという点では共通していますが、大きな違いがあります。

たとえば、「他に迷惑をかけてはいけない」という教えは、社会生活を営む上で基本となるものですが、これは道徳であります。哲学は、それをいかにすべきかを追求する学問です。それに対して宗教は、「人は、本来、迷惑な存在である」と認識、自覚できる心を培う教えであります。

人は、他の命をもらわなくては生きていけません。出世しようと思えば、他を蹴落さねばなりません。満員電車にやっと割り込めたと思えば、多くの人に窮屈な思いをさせてしまっているのです。

そう、人は生きていくだけで、迷惑千万な存在なのです。その認識こそが大事なのです。そこから懺悔の心が生まれ、自分には厳しく、他人には寛容になれるのです。

そこで、改めて「人生は途中下車……」を見てみましょう。

わが人生を振り返ってみれば、確かに途中下車ばかり。そしてどこへ行けばよいのか、目的地は、漠として見えてきません。「わが人生に悔いなし」、それは思い上がりというものです。聖徳太子曰く、「世間虚仮、唯仏是真」、ただ仏のみが真なのです。驕る心に懺悔せねばなりません。

だから、そんな平らなわが身を、生かして見護って下さる、阿弥陀さまの慈悲に、「南無阿弥陀仏」とお念仏を唱えるのです。

平成十六年度年回表

・ 一 周忌	平成 十五年	・ 二十三回忌	昭和五十七年
・ 三 回忌	平成 十四年	・ 二十七回忌	昭和五十三年
・ 七 回忌	平成 十年	・ 三十三回忌	昭和四十七年
・ 十三回忌	平成 四年	・ 三十七回忌	昭和四十三年
・ 十七回忌	昭和六十三年	・ 四十三回忌	昭和三十七年
		・ 四十七回忌	昭和三十三年
		・ 五十回忌	昭和三十年

◎任職年頭の挨拶

新春を迎えても、何時でも、目に見ぬ、耳に聞こえぬ、体にかかるとなる吾が幸せは、合掌、南無阿弥陀佛となえる声を耳に聞け。

◎平成十六年度の予定

本年の年忌は、右の表のとおりになっております。できるだけ、早めにお申し出いただきますようお願いいたします。

なお、恒例年間行事は次のとおりです。

- ・ 3月20日(土) 春彼岸施餓鬼会
 - ・ 8月12日(木) 平和公園墓経
 - ・ 8月13日(金) 潮音寺納骨堂墓経
 - ・ 8月19日(木) 盆施餓鬼会
 - ・ 9月23日(木) 秋彼岸施餓鬼会
- 詳細につきましては、また改めて本誌にて御連絡しますので、よろしくお願いいたします。

▼雑記



版画カレンダー
 画像の説明は次のとおりです。

【一月】木造十一面観音

平安中期 草津橋堂蔵

【二月】銅像釈迦坐像

白鳳期(重文) 奈良桜本坊蔵

【三月】菩薩半迦像

韓国慶尚南道出土

【四月】釈迦誕生仏 子ハット仏

【五月】金銅仏坐像 中国北魏

【六月】釈迦如来坐像 鎌倉期

【七月】観音菩薩跪坐像

平安期 京都地蔵院蔵

【八月】砂岩三尊仏立像 中国隋

【九月】矜羯羅童子

鎌倉期 金剛峰寺蔵

【十月】敦煌飛天

【十一月】木造十一面観音(正面)

平安後期(重文) 近江八幡田福寺蔵

【十二月】十一月に同じ(背面)

▼元朝やただ安穩と
 祈りたる 沐魚